

群馬大学

GUNMA UNIVERSITY

情報学部

文理融合・データサイエンス教育

学部案内 2022

“情報”から広がる未来



文系・理系の枠を超えた **学び** を



高山 利弘
Takayama Toshihiro

群馬県生まれ。1986年 本学教養部に赴任。1993年 社会情報学部。2021年4月 情報学部。
専門は日本文学、言語文化、歴史文学や軍記文学をめぐるテキストの解説、説話伝承や日記・記録等をめぐる言語情報の諸問題を研究している。『訓読 四部合戦状本平家物語』(単著)、『校訂延慶本平家物語 巻二』(単著)、『向 巻七』(単著)、『軍記物語研究叢書2 軍記文学の始発——初期軍記』(分担執筆)、『祇園女御説話の方法』、『源平闘諍録』の志向などの著書・論文がある。

群馬大学情報学部は、社会情報学部と理工学部電子情報理工学科情報科学コースを母体とする学部です。「人文情報」「社会共創」「データサイエンス」「計算機科学」の4つの教育プログラムを擁しています。

群馬大学「情報学部」が他大学の情報系学部と異なるのは、社会情報学部の教育プログラムを継承する人文科学分野と社会科学分野を厚くしている点です。

かつての「情報化社会」は「情報社会」へ、そして「高度情報化社会」に、さらには「高度情報社会」というように、すさまじい速度で進展しました。言語表現としてはわずかな文字数の違いに過ぎませんが、情報をめぐる新たな変化のきざしは、たちまちのうちに社会を席卷し、実体を伴った世界を形づくっていきました。それとともに、我々の日常生活もまた大きな変貌を遂げていったといえるでしょう。

とはいえ、物心がついた頃から情報機器に囲まれた環境にあり、スマホやネットなどを自由に使いこなす若いみなさんにとっては、高度情報社会とは自明の世界であり、このような物言いは、これらを経験した古い世代の人間のとらえ方に映るでしょう。しかし、未来を見据える上で、ここで少し立ち止まって、高度情報社会はどのようなにもたらされたのか、そしてそれは何によって支えられているのかなどについて考えてほしいのです。「情報」という言葉の背後には、文字としては見えないさまざまな事象が存在しています。

高度情報社会においては新たな課題が次々と押し寄せています。たとえば、日常生活に関わるさまざまな業種において、日々生成、蓄積される「ビッグデータ」の存在はご存知と思います。それらをどう活用するかという問題、その一方で、個人情報や権利などに関わるデリケートな問題も存在します。さまざまな課題をかかえつつ、高度情報社会は次のステージへと展開していくことでしょう。その際、情報やデータの精緻な分析が必要なのはいうまでもありませんが、それとともに、人間および社会にとって、それらの分析結果がどのような意義を持つのかを見定める視点も重要です。

本学部の入試は文系・理系を問わず、受験科目を選択することが可能です。それは本学部での〈学び〉の総体が文系・理系にとらわれないことも意味しています。高校生のみなさんは文系・理系のクラスに分かれて勉学に取り組んでいると思いますが、それは受験のための便宜的な区分にすぎません。情報学部での〈学び〉によって文系・理系の殻を破り、新たな価値観と可能性を見出してください。

contents

- 1 学部概要
- 2 教員紹介
- 6 カリキュラム
- 8 学年別学修内容
- 12 授業紹介
- 16 GFL・交換留学プログラム
- 18 就職支援・進路情報
- 20 キャンパスライフ

※インタビュー学生の学年は取材当時のものです。

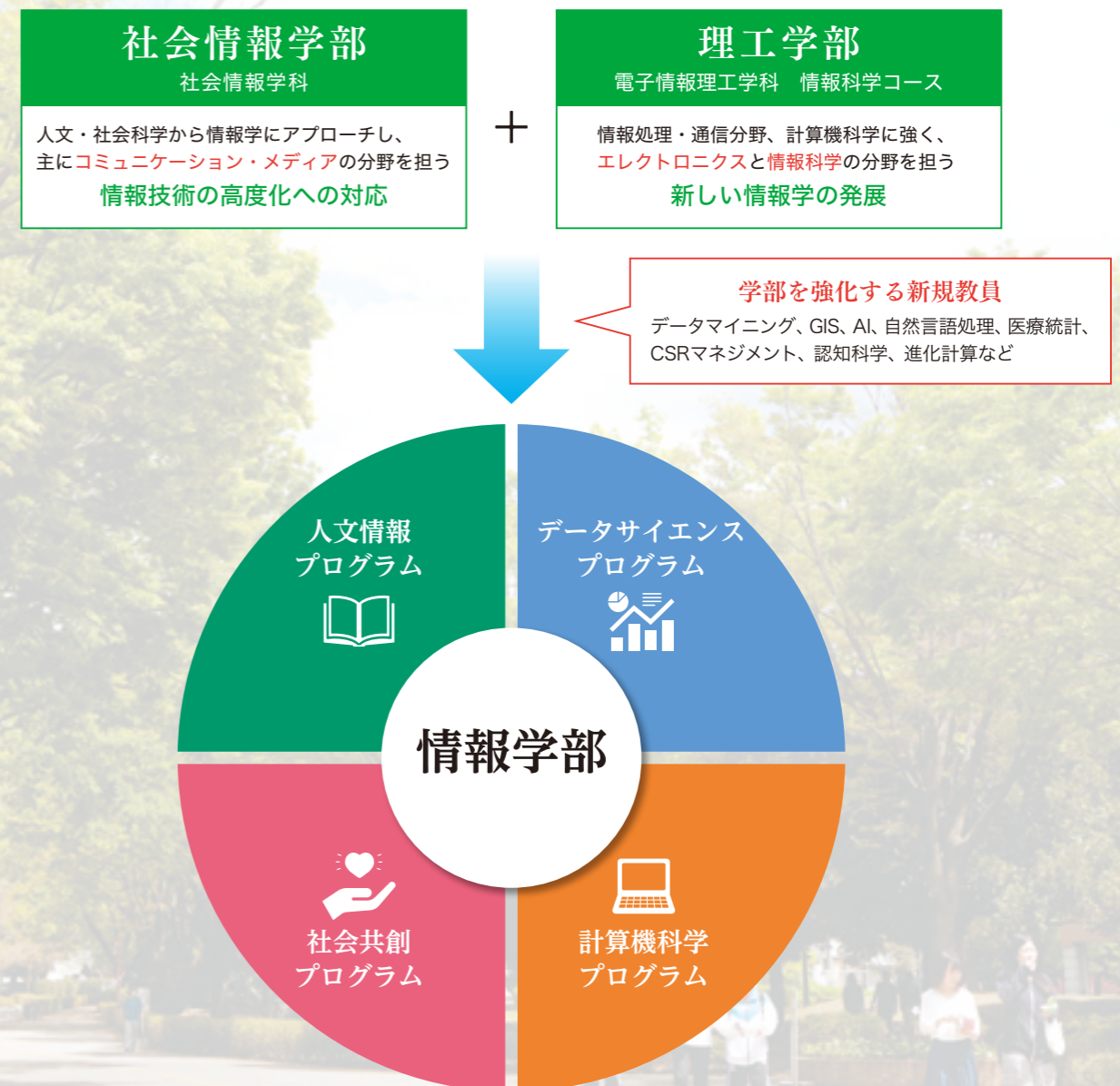
学部概要

文理融合

データサイエンス教育の拡充

群馬大学では、社会情報学部と理工学部電子情報理工学科情報科学コースにおいて実施されてきた教育を統合し、データサイエンス分野の教育も取り入れた「情報学部」が2021年4月に誕生しました。

情報学部では、科学技術と人間社会の調和が求められる持続可能社会の実現において、情報を基軸とした文理横断型の教育により、Society5.0を支え、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法等のスキルを持ち、人文科学、社会科学、自然科学の知識を有した人材を育成します。



教員紹介

「大学では何が学べるの?」「自分の本当にやりたいことが分からない」「大学の先生ってどんな感じ?」情報学部には、さまざまな専門分野の教員が揃っています。文系・理系関係なく、自分の興味を広げ、深めることができる学びがきっとあるはず。それぞれの教員の研究や学びから、新しい扉を開いてください。



天野 一幸

【計算量理論、アルゴリズム論、機械学習】

コンピュータを効率良く使用する手法や、その限界を数学的に研究する、理論計算機科学と呼ばれる分野の研究をしています。



伊藤 賢一

【理論社会学、情報社会学】

(高度)情報社会とは何なのか、よりよい情報社会をつくるにはどうしたらよいか、そもそもよりよい社会とは何なのか、といったことについて社会学や社会情報学の道具を使って探求しています。



奥 寛雅

【高速画像処理、高速光学デバイス】

我々の周囲は人や車などが行き交う動的な環境となっており、このような環境に対応して高速かつ適応的に映像の計測や投影を行う技術を研究・開発して、次世代のメディアテクノロジーを創出することを目指しています。



河西 憲一

【待ち行列理論、確率モデル】

オペレーションズ・リサーチにおける待ち行列理論やマルコフ過程、及びそれらを応用した情報通信ネットワークのモデル化と性能評価法を研究しています。



荒木 徹

【グラフ理論、組合せ最適化】

SNSのフォローの関係や道路や鉄道などの「つながり」は、数学的にはグラフという方法で表現されます。グラフ上の数学的な問題を、コンピューターを使って解いたり、理論的に解いたりするための方法を研究しています。



岩井 淳

【社会情報システム学、意思決定支援論】

「社会の幸せに結びつく情報化」が目標、インターネット上の匿名性やストレスの問題を考えつつ、社会的な意思決定の支援方法を研究しています。



奥貫 圭一

【地理情報科学、都市工学】

都市や地域のさまざまな問題に対して、データ解析の技法をとりいれながら、地理情報システム(GIS)をどのように活用していけば私たちの日常生活に役立てられるか研究しています。



北村 純

【行政学、地方自治論】

行政学・行政史(行政の歴史)、「国と地方の関係」の政策過程分析、行政学と社会情報学の融合的な研究(政府情報システム論、公文書管理改革)などを行っています。



荒木 徹也

【グラフアルゴリズム、ソーシャルビッグデータ】

twitterなどのソーシャルデータに対して、機械学習・データマイニング・自然言語処理などの技術を用いて現実社会に有用な知見を得るための研究や、データ可視化・経路探索・施設配置問題などの研究に取り組んでいます。



江良 亮

【開発経済学、実証経済分析】

経済学を専門としており、中でも開発途上国の経済発展を分析する開発経済学、そして情報通信産業の生産性を考察していくことを主な研究対象としています。どちらもデータという定量的な情報をもとに分析を行っています。



柿本 敏克

【社会心理学、グループ・ダイナミクス】

人の社会性の諸相の探求。特に、環境問題や集団間関係をシミュレートする「仮想世界ゲーム」を使い、集団内・集団間のダイナミクスを探っています。持続可能な社会の構築に向けた学術的貢献を模索しています。



金 宰弘

【会計学・環境管理会計・CSRマネジメント】

企業が環境問題や社会問題にどのように取り組んでいるのかを、「マテリアルフローコスト会計(MFCA)」、「マネジメント・コントロール・システム(MCS)」といった会計手法や会計理論を用いて研究を行っています。



安藤 崇央

【ソフトウェア工学、形式手法】

ソフトウェア工学、主にソフトウェアライフサイクルの各段階に形式手法を適用する手法やツールについて研究・開発を行っています。また、近年ではスマートモビリティに関する研究にも携わっています。



太田 直哉

【コンピュータビジョン、自律走行ロボット】

コンピュータビジョンとはロボットの目を作ることで、自律走行ロボットとは人間が操作しなくても自動的に移動するロボットのことです。私の研究室ではこれらを研究しています。



片山 佳代子

【疫学、臨床統計学、社会医学】

ビッグデータの1つであるがん登録データの利活用をはじめ、様々なヘルスデータの統計解析結果をどのように社会に還元するか、わかりやすい情報発信のあり方までを研究しています。



吉良 知文

【数理技術に基づく社会制度設計】

様々な問題を科学的に解決するための道具(数理最適化、ゲーム理論)を用いて、公平で納得性の高い社会のしくみを設計する研究をしています。保育所の利用調整など、我々の成果が現実社会で活用されています。



石川 真一

【植物環境生理学、植物生理生態学】

温暖化や地域開発で生じた環境問題解決のための、生物多様性の保全・外来生物の抑制、地域生態系再生、ピオトープの育成管理方法の研究をしています。



大塚 岳

【非線形解析学、応用数学】

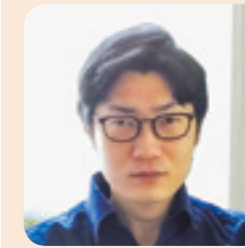
結晶で見られるような多面体構造や、界面が成長することで生じる界面の衝突・融合・生成・消滅などを含めて、モノの形を変化する様子を未知関数の方程式として数学的に捉え解析する研究と、その応用を行っています。



加藤 毅

【AI、機械学習】

AIは、昨今急速に発展し、人間社会に深く浸透してきました。私は、AIに関する汎用的な技術の開発に加えて、環境工学や生物学など異分野におけるAIの応用の模索を行っています。



草野 邦明

【地理情報科学、人文地理学】

地理情報システム(GIS)と小地域統計を用いて都市の社会・経済的事象を明らかにする研究をしています。



井門 亮

【言語学、語用論】

話し手が発したことを聞き手はどのように解釈しているのだろうか、という疑問をもとに、コミュニケーション・発話解釈の仕組みや、ことばの意味について語用論を中心とした言語学的観点から研究をしています。



大野 富彦

【経営学、サービス・マネジメント、経営組織論】

観光地・温泉地の価値共創プロセスとそのマネジメントのあり方について、個別企業(旅館等の宿泊業が中心)と地域の両面から研究しています。



河島 基弘

【社会学、環境倫理】

メディアによる様々な事象の表象、人間と動物の関係が研究テーマです。ここ最近では特に、捕鯨問題や欧米の動物保護運動に焦点を当て、当事者へのインタビューやフィールドワークを実施しています。



小竹 裕人

【公共政策論(経済学)、政策評価】

影響の範囲が狭い公共サービスは公平性の観点から実施が疑問視されてきました。でも地域では買物弱者問題などが顕在化しています。公平性とのバランスを考え局所的な課題解決のための政策研究を行っています。



齋藤 翔太

【情報理論とその機械学習などへの応用】

デジタルデータの圧縮や通信に関する数学的な理論である情報理論を研究しています。また、情報理論は情報を扱う科学の基礎理論としても重要であり、情報理論を機械学習などへ応用する研究を行っています。



高井 伸和

【アナログ集積回路設計、自動設計・合成、人工知能】

有能なアナログ集積回路設計者の匠の技を学習し進化させることで、今まで人間では設計できなかったアナログ集積回路を計算機を用いて自動で設計することを目指しています。



浜名 誠

【ソフトウェア科学、関数型プログラミング言語】

ソフトウェアの基礎理論とそれを応用した高度プログラミング言語技術研究を行っています。基礎理論(書換系)は、プログラミング言語、人工知能、セキュリティなど幅広い応用を持っています。



宮田 洋行

【組合せ論、アルゴリズム理論】

アルゴリズムの理解を深める数学、また数学を理解するのを助けるアルゴリズムを研究しています。



坂本 和靖

【計量経済学、労働経済学】

数量データを用いて、社会保障制度が人々の行動・満足度と与える影響を検証し、望ましい働き方・家庭生活のあり方について研究しています。



高木 理

【医療情報学】

病院には診療に関する膨大なデータが蓄積されており、今後何百年以上もの間利用されます。医療情報学では、このようなデータの内、何が重要で、如何にして収集・管理・活用していくのかを研究していきます。



林 克彦

【人工知能、自然言語処理】

人間の言語理解や推論、問題解決などの知的処理をコンピュータに行わせるための基礎理論について探求しています。



安川 美智子

【社会情報学、図書館情報学】

情報検索システムの検索有効性を向上することを目的として、検索関連語を用いた分類型検索の応用的研究という観点から、多言語対応の分類型検索システムの開発に取り組んでいます。



柴田 博仁

【インタラクションデザイン、認知科学】

道具次第で人は賢くもなり、愚かにもなります。人を賢くする道具を作りたい。特に興味があるのは読み書き。ICTを用いた新たな読み書きの環境構築を目指します。



高山 利弘

【日本文学、言語文化】

文学作品や日記・記録などの文献史料、説話や伝承などの分析・解説を通して、日本の古代社会における情報の在り方と文化を研究しています。



平田 知久

【近・現代思想史、比較社会学、社会史】

東(東南)アジアの情報メディア技術の普及と伝播のあり方を、各国の比較と歴史の変遷から描写し、未来の情報社会の姿をメディアや技術に関する近・現代の思想的背景を考慮に入れながら提示することが研究の主眼にあります。



山内 春光

【倫理学、日本倫理思想史、社会倫理思想】

・日本の神話や物語には、男女や善悪の問題にからんで何が表現されているのか
・夏目漱石がその作品世界の中で、一番言いたかったことは何だったのか
・小説やルポルタージュ類の中に、現代社会・地域社会の若者の生き方・考え方をさぐります。
※2021年度をもって退職となります。



嶋田 香

【データ科学、知能情報学】

進化、免疫、群知能といった生物界にみられる種々のメカニズムを参考にした新しい情報処理技術に関心を持っており、大規模化・複雑化するデータの分析に役立つアルゴリズムやその応用法を研究しています。



鷺島 修治

【計量社会学、社会階層論】

学力調査や社会調査のデータを用いた計量分析を通して、家庭背景による教育機会の格差・不平等が生み出されるメカニズムについて研究を行っています。



藤井 正希

【憲法学】

第1のテーマはマスメディアの活動を適正化するための憲法論の研究。また、憲法9条の永久平和主義を実現・発展させるための研究や、社会的弱者を救済するために生存権を積極的活用する研究にも興味があります。



結城 恵

【教育社会学、多文化共生、キャリア教育 異文化コミュニケーション】

人的多様性(ダイバーシティ)を活かす多文化協働の仕組みづくりと人材養成のあり方を探るため、外国人留学生や定住外国人に焦点をあててアクションリサーチを展開しています。



末松 美知子

【比較演劇、表象文化論】

演劇など世界の様々な舞台表象について、その社会・文化的背景や現代にどのような意味を持つのかを研究をしています。身体というメディアを通して人間や社会について考察します。



中野 眞一

【アルゴリズム、最適化】

様々な問題を、少しだけのメモリを使って、高速に、簡単に解く、アルゴリズムの設計技術を開発しています。この技術を使って、世界最速のアルゴリズムを多数開発しています。



藤田 憲悦

【計算理論、数理論理学】

計算の理論、計算モデルと数理論理学の観点から情報の基礎理論を究めます。

その他に、西村尚之、松宮広和、長井歩、細野文雄、大澤新吾が所属しています。



杉山 学

【オペレーションズ・リサーチ、経営科学】

オペレーションズ・リサーチや経営科学と呼ばれる学問分野(OR/MS)が私の主な専門です。特に総合評価を行うための数理的意思決定支援手法の開発や実証分析を中心に研究しています。



永野 清仁

【最適化理論、機械学習、ネットワーク最適化】

人間関係や道路網など、多くの現象はネットワークとして扱えます。ネットワーク等を題材に、数学的手法を世の中の役に立てるための研究をしています。



松井 猛

【最適化、意思決定支援】

複雑化した現代社会(システム)におけるさまざまな問題に対して、最適化手法に基づいて人間や環境に優しいソリューション(問題解決法)を開発します。



関 庸一

【データマイニング、統計的学習理論、応用データ解析】

デジタル化され大量に収集・蓄積されたデータを扱う方法として、データマイニングなどデータ解析の技法とその応用の方法を研究し、「データでものを言う」(意思決定する)方法を考えられています。



西村 淑子

【行政法、環境法】

行政や環境に関する法政策、裁判例を研究しています。近年は、原発避難者訴訟やハンセン病政策の歴史に関心を持っています。



松野 省吾

【人間情報学、ウェブ情報学】

SNSやブログといったWeb上の情報にライフログや生体信号など、人間を取り巻くあらゆるセンシングデータを組み合わせることで、人間の持つ感覚を情報システムとして再現する方法を研究しています。



カリキュラム

		1年		2年		3年・4年						
		前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養教育科目	教養基盤科目	学びのリテラシー(1) 英語 スポーツ・健康 データ・サイエンス 就業力	学びのリテラシー(2) 英語 スポーツ・健康	英語	英語							
	教養育成科目	人文科学科目群 社会科学科目群 自然科学科目群 健康科学科目群 外国語教養科目群 総合科目群										
専門教育科目	学部基盤教育科目	情報社会基礎論 情報科学入門 情報社会と倫理 微積分学1	基礎情報処理演習 経済学基礎論 確率統計1 マスメディア基礎論 社会学的コミュニケーション基礎論	研究方法基礎論 微積分学2 線形代数学2	プログラミング言語1 a. b 離散数学1 地域協働論 経営学入門 文献研究法	事例研究法 プログラミング言語2 a. b データ構造	アルゴリズム1 データベース	情報と職業				
	人文情報プログラム科目	Global Issues and SDGs	集中英語	ソーシャルメディア論 近・現代科学哲学 言語学的コミュニケーション論1 専門外国語1 専門外国語2 マス・コミュニケーション理論 社会階層論	理論社会学 現代倫理学 歴史情報論 異文化コミュニケーション論 社会学的コミュニケーション論 映像産業論 社会心理学	コミュニケーション心理学 計量文献学 批判的メディアリテラシー 比較社会情報学 言語学的コミュニケーション論2 情報社会と人間 現代文化論	コミュニケーション心理学演習 言語メディア論1 非言語コミュニケーション論 芸術表象論	言語メディア論2 身体メディア論				
	海外実践研修A-B											
	2年次に希望するプログラムを選択	社会共創プログラム科目			憲法1 情報産業基礎論 自然環境論 地域社会学1	行政法1 ミクロ経済学 会計学1 民法1 情報法1 環境科学演習 公共政策論	政策情報論 生物環境論 行政法2 情報社会と私法 マクロ経済学 憲法2	民法2 情報法2 会計学2 生活経済政策 経営基礎論 地域社会学2	情報政治論 会計情報 地方自治1 地域メディア 人間環境論 環境法1 経済法・知的財産法	金融論 経営組織論 経営情報論 社会調査実習1 環境アセスメント実習1 環境アセスメント	環境政策 環境法2 刑法 企業法 政策分析	地方自治2 社会調査実習2 環境アセスメント実習2 環境政策実習
	データサイエンスプログラム科目			確率統計2 数理最適化 プログラミング演習1	確率統計演習 経営科学	多変量解析 機械学習 プログラミング演習2 意思決定と社会的選択 医療AI	調査・実験デザイン	データエンジニアリング 時系列解析 ゲーム理論 計量経済分析	データマイニング演習 ベイズ統計学 ノンパラメトリック解析 空間統計	シミュレーション 画像処理 医療情報学 学習データ分析		
計算機科学プログラム科目			プログラミング演習1 離散数学演習 人工知能 物理学基礎1		プログラミング演習2 離散数学2 離散数学演習 論理設計 オペレーティングシステム 数理論理学 物理学基礎2		情報科学実験1 ソフトウェア演習1 プログラミング言語3 形式言語とオートマトン	計算機システム 関数型言語 情報理論 コンピュータグラフィックス 回路設計	情報科学実験2 ソフトウェア演習2 ソフトウェア演習3 プログラミング言語4 アルゴリズム2 デジタルシステム設計	ソフトウェア工学 情報ネットワーク ネットワークプログラミング 情報セキュリティ プログラミング言語技術		
他プログラム科目	選択したプログラムとは異なるプログラムの科目を履修し、分野横断の幅広い専門知識を獲得する。											
自由選択科目	学びの視野を広げ、専門性を深めるために、専門教育科目の中から自身の興味・関心に基づき履修する。											
キャリア教育科目		社会に学ぶ	社会に学ぶ	社会に学ぶ	社会に学ぶ	社会に学ぶ	社会に学ぶ	社会に学ぶ	社会に学ぶ			
				仕事の現場を知る・A/B/C		仕事の現場を知る・A/B/C		融合型PBL 1 ゼミナール(3年次) 卒業研究(4年次)	融合型PBL 2 ゼミナール(3年次) 卒業研究(4年次)			

※開講学期は変更となる可能性があります。

学年別学修内容

1年次 学部別基盤教育

1年次に学部別基盤教育として、どのプログラムにおいても基軸となる専門能力を養い、プログラム横断型の科目の履修を通じて文理融合による俯瞰力を育成します。

2年次 希望するプログラムを選択

2年次に4つのプログラムから1つを選択します。情報学として融合型PBL(Project Based Learning:課題解決型学習)・ゼミナール(演習)・卒業研究により、実践的に活躍できる能力を涵養^{*}していきます。

^{*}水が染みこむように自然に少しずつ養い育てること。

人文情報プログラム	社会共創プログラム	データサイエンスプログラム	計算機科学プログラム
言語メディア論	情報政治論	機械学習	計算機システム
マス・コミュニケーション	情報社会と人権	確率統計	人工知能
ソーシャルメディア	情報法・行政法	数値最適化	ネットワーク
情報社会と倫理	経済学基礎論	医療情報学	プログラミング言語
社会的コミュニケーション	政策情報論	データベース	アルゴリズム

養成する人材像

人文科学的知見を活用して高度情報化社会における課題を探索する能力を修得し、課題解決のための実践的理念を提供する能力を修得します。

将来のキャリアビジョン

マスコミ・メディア産業/情報通信関連企業/広報部署/企画・調査部署/公務員/社会起業家 など

養成する人材像

高度情報化によるシステム(制度)の変化について、社会科学的知見を活用して課題を発見し、社会的課題の解決および社会目標の達成のためのシステム(制度)の構築や方策を提案できる能力を養成します。

将来のキャリアビジョン

公務員/金融機関/情報通信関連企業/企画・営業部門/ファイナンシャルプランナー/証券アナリスト/アクチュアリー/経営コンサルタント など

養成する人材像

社会全体から集められるビッグデータを、情報システムを利用して収集する方法を設計し、集まったデータから、目的とする価値に適合した解決策を導く能力を養成します。

将来のキャリアビジョン

データサイエンティスト/システムエンジニア/情報サービス業・金融業・製造業等のIT関連研究開発者/公務員/アクチュアリー/経営コンサルタント/医療情報技術者 など

養成する人材像

計算機や情報ネットワークをその数理的原理から理解することで、進歩の速い情報技術をフォローアップできる能力をもち、人工知能や各種情報システムを研究開発できる能力を養成します。

将来のキャリアビジョン

ITエンジニア/情報通信機器開発者/組み込みシステム設計開発者/システムエンジニア/企業等のIT関連研究者 など

情報学部で学ぶことができる一部の授業をご紹介します

1年次

学びのリテラシー (1)(2)

学部基盤教育の代表的な授業の1つに、「学びのリテラシー」があります。大学での学びの基本的な方法を身に付けるための科目で、(1)と(2)に分かれます。

「学びのリテラシー(1)」では、大学生に必要とされる日本語について講義や演習を受け、レポート作成や口頭発表などを通して、自己の意見を的確に表現する能力を身に付けることを目指します。

「学びのリテラシー(2)」では、学生自身が興味ある分野を選択します。少人数のゼミナール・講義・演習の形で行い、各教員が専門としている分野を中心に、課題のを見つけ方、分析の仕方、発表の方法、文章のまとめ方などを修得します。さらに、各学問分野に共通の思考力・判断力・表現力等の向上を目指します。「学びのリテラシー(1)」で学んだことを活かし、本格的にディスカッションやプレゼンテーションを行う授業が多く開講されています。

学びを構築する

教養基盤科目の「学びを構築する」には、就業力を育成すること、大学での学びに慣れてもらうこと、の2つの目的があります。学生10名に対して、メンターと呼ばれる教員1名がクラス担任となり、質問を受けたり、ディスカッションのサポートをしています。

授業内で、情報化によって変化する職業、情報化が社会に与える影響などの題材で外部講師の講演があり、その題材を皆さんが主体的にディスカッションし、グループワークを通じ理解を深め、意見発表会で5名班単位で発表を行ってまいります。コロナ対策でリモート授業が求められた2021年はmoodleやZoomやformsといったこれからの大学生活で使うであろうツールも多用しました。この授業とは関係しない1年生向けの情報も伝達しました。大学生生活のスタートをスムーズにするための授業と位置づけて良いでしょう。



人文情報プログラム

言語学的コミュニケーション論1

普段の会話において私たちは、ことばを用いてごく自然にコミュニケーションを行っています。このことは当たり前のように思えるかもしれませんが、私たちが首尾よくコミュニケーションを行えるのも、その根底に何らかの原理が働いているからではないでしょうか。「言語学的コミュニケーション論1」では、語用論を中心に言語学的な観点からコミュニケーションにアプローチし、その仕組みについて考えていきます。

語用論とは、言語学の中でコミュニケーション・発話解釈の仕組みや、ことばによって伝達される意味などに関する問題を扱う分野のことです。この授業では、語用論の基本的な概念や理論を理解するとともに、それらに基づいて日本語や英語の様々な言語表現・現象の分析を行います。具体的には、含意(暗にほめかされた意味はどのように解釈されるのか)、発話行為(ことばを通して何かの行為を行うとはどういうことか)、ポライトネス(対人関係を保ちながら円滑なコミュニケーションを図るにはどうすればよいか)、レトリック(メタファーやアイロニーなど修辭的表現にはどのようなものがあるのか)といったテーマを扱います。これらの分析を通して、私たちがコミュニケーションを行う際には、文法や単語の意味といった言語的知識に加え、発話の状況や聞き手の持つ想定といった非言語的知識や、人間の持つ認知的能力がいかに重要な役割を果たしているのかを明らかにしていきます。

社会共創プログラム

生活経済政策論

社会問題として、長く論じられてきた「貧困問題」について、社会的責務の観点、個人的責務の観点の双方から考察することを通じて、現代消費生活の実態についての講義を行います。現在、長引く不況の影響により、高度経済成長期以降は影を潜めていた(絶対的)貧困者が増加しており、経済格差やワーキングプアなどの「貧困問題」が注目されています。

本講義では、これまで貧困問題がどのように捉えられてきたか俯瞰し、その後、具体的な所得分配の不平等度の計測方法、セーフティネットとしての社会保障制度について学習します。

生活困窮者の実態に沿って、どのような制度が必要なのか、およびその運用の仕方などについて考察します(社会的責務)。また、貧困に陥ったものをどのようにサポートするかという話だけではなく、「貧困」は身近な問題であり、誰しもが陥る可能性を孕んでいること、そして、境遇・偶発的な事故だけではなく、現代の消費社会生活の中で、消費者信用に関する知識の欠如による転落の事実についても触れます(個人的責務)。金融取引という異時点間の所得・消費の取引可能性がもたらすその有用性、逆に異時点間の取引が招く問題(多重債務の話)を、行動経済学のアプローチを援用しつつ、消費生活内における意思決定行動の在り方を一緒に考えることを目指しています。

データサイエンスプログラム

意思決定と社会的選択論

この世の中は意思決定であふれています。個人や社会がデータを駆使して行う様々な意思決定の手順を考え、将来それを改善していく糸口をつかむのが本講義の目標です。

まず個人の思考過程に疑問を持ちましょう。ここでクイズを一つ。裏返した3枚の札から1枚の当たりを引く賭けの話です。客が1枚を選び、裏返そうとした時、胴元が止めました。残り2枚の1枚を裏返して外れと示し(胴元は当たりを知っています)、「今なら最初の札と残った1枚を交換できますよ」と言いました。胴元が1枚減らしたのは、そうして「2枚に1枚」にするサービスデーだったためです。好意も悪意もありません。あなたならどうしますか? ここでの正しい選択は「交換する」です。ところが、多くの人は交換しないと答えるのです。この「モンティ・ホール問題」など、個人の意思決定をめぐる古典的な議論から授業はスタートします。

集団や社会の意思決定の問題は、さらに複雑な様相を呈するものです。とりわけ、社会全体の意思決定を扱う「社会的選択」の理論は、しばしばノーベル経済学賞の対象にもなる魅力的な内容です。このように注目されてきたいくつかのトピックを踏まえつつ、個人の問題から社会の問題に目を移すように授業は展開していきます。

計算機科学プログラム

人工知能論

近年、人工知能(AI)は、製造業、医療、農業、物流、金融と幅広い産業分野に活用され、人工知能を搭載した製品や人工知能を利用したサービスが社会に急速に浸透しています。この社会の変革をもたらしたのは、機械学習や深層学習に基づく人工知能です。

人工知能は、人間がこれまでとルールを与えなくても、与えられたデータから自動的にルールを読み取って学ぶことができます。人工知能ができる具体的なタスクに、画像認識があります。大量の犬と猫の画像を収集して、それぞれの画像に「犬」「猫」とラベルを付けて人工知能に与えると、人工知能は新たに得た画像に犬が映っているか、猫が映っているか、判断できるようになります。自動翻訳も人工知能の代表的なタスクで、近年、大幅に精度が向上して、広く使われるようになってきました。人工知能に自動翻訳をさせるには、大量の対訳データを収集して人工知能に学習させます。そのほかにも、人工知能はすでに多くのタスクに応用されていますが、新たな応用に適用するとき、もしくは、すでにある人工知能を改良するとき、人工知能に用いられている原理の理解が不可欠です。

この講義では、人工知能は、与えられたデータからどのようにしてルールを獲得することができるか、その仕組みを学びます。

人文情報プログラム

言語メディア論

情報機器の普及は、我々の日常生活に大きな利便性をもたらしました。現代人の言語活動にあっては、(文字を書く)という行為が(キーを叩く)あるいは(パネルをタッチする)という行為に置き換わりつつあります。このことが日本人の言語活動に大きな影響を及ぼすと思われます。

このような状況をふまえつつ、「言語メディア論1」では、古代から近代に至るまでの日本における言語メディアの諸相を、いわば原点に立ち返って、「言葉」「文字」「書くこと」「語ること」「テキスト」などの基本的なテーマをめぐって、文化論的な視点も交えて概観します。

「言語メディア論2」は、「言語メディア論1」の各論的な内容です。〈語ること〉や〈書くこと〉を通して過去から現代へと継承されてきた説話や伝説などのさまざまな「はなし」を解説・分析します。それぞれの「はなし」が流布した社会の相および人々の思想をたどり、現代に生きる我々にとって、どのような意味があるかを考察します。

社会共創プログラム

経営情報論

社会における価値をめぐる人や組織の行動について、企業や経営者を対象として考える経営学に対して、情報技術の応用による経営活動の合理化・効率化について学ぶ、経営学と情報技術との関連を意識した授業です。

近年の経営活動において、企業がさまざまな立場の人たちと対話しながら、「共」に新しい価値を「創」造していくことは重要な概念です。なぜならば、経済、企業組織などを取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な状況にある現代においては「変化への対応力」が求められているためです。

また、現代では消費者の好みや生活行動も細分化され、商品やサービスの消費サイクルが加速し、企業の努力だけでは消費者のニーズを掴むことは困難になってきています。さらに、新しい価値を創造するためには環境といった社会的なニーズも捉えていくことが必要となります。

そこで、企業はデータ収集を行って正確な予測をした上で新しい価値を創造することが求められています。しかし、利用可能なデータの範囲と量が飛躍的に拡大しているため、人力や原始的なツールを使っていたのでは大変なため、情報処理・通信技術により課題を解決しています。

授業では、社会における企業をはじめとする各種の組織が、経営に関してどのように情報技術を活用すれば共に新しい価値を創造できるか、また、そのためにはどのような環境が必要かについて学び、理解することを目的としています。

データサイエンスプログラム

画像処理論

人間は目によって得られる視覚から、外部に関するさまざまな情報を得ています。さてそれと同じことがコンピュータを使ってできるでしょうか。これを可能にする技術を画像処理あるいはコンピュータビジョンと言い、これらの技術の初歩を学ぶのが本授業の内容です。授業で扱うのは基礎的な技術で、見にくい画像の画質を改善する、写真に写っている物体の輪郭を抽出する、動きのある画像(動画画像)から動いている部分を抽出するなど学びます。しかしこのような基礎的な技術でも、工場の製品製造ラインで不良品を見つけたり、監視カメラに不審な動きをするものがあるかを検知したりすることが可能になります。また授業の内容を基礎にさらに高度な画像処理を学べば、カメラを用いて自動的に動作をするロボットや自動運転自動車の画像処理へとつながります。

このように我々が目で行っている機能をコンピュータで行い、自動化することに興味があれば、是非この授業を受けてみてください。



色画像処理を使えば、赤信号も検出できます。

計算機科学プログラム

プログラミング言語論3・4

オブジェクト指向プログラミングは、現在ではソフトウェア開発の主流のプログラミング技法となっており、ソフトウェアの開発に携わる人にとっては、その概念・技法ともに習得しておくべきスキルのひとつとなっています。

3年次前期開講の「プログラミング言語3」では、プログラミング言語Javaを題材として、オブジェクト指向プログラミングの基礎について学修します。特に重要な、クラスやオブジェクトなどの抽象データ型やデータの種類、継承や委譲による再利用性をもつ派生型の定義、多相性などの概念について、その機能と実際の利用方法について扱います。また、各種概念の修得を確実なものとするため、講義では多くの例題を取り入れています。

続く3年次後期に開講される「プログラミング言語4」では、オブジェクト指向で実際的なプログラムを書くスキルを獲得するため、Java言語でのプログラミング演習を中心に学修します。プログラミング言語3で扱った重要な概念の復習に加え、マルチスレッドによる並列処理、イベントドリブン型のプログラミング技法、デザインパターンを利用した再利用性の高いソフトウェア設計の基礎を学び、さらにGUIやグラフィックス、アニメーション関連のプログラミングについても扱います。

卒業研究

4年間の集大成として、自分の興味・関心や問題意識に基づき卒業研究を行います。社会情報学部で得た知識や技能を存分に生かし、自ら選んだテーマの研究を完成させ、他の学生や教員の前で発表し、論文にまとめます。

授業の一部を紹介します

📖 人文情報プログラム



現在の情報環境下において、私たちが受け取る情報の真実性を批判的に検討・検証することができる能力としての「メディアリテラシー」が必要不可欠であると言われています。SNSをはじめとして、私たちが日常生活において接触する情報が増加し続けていることを考えれば、今後の社会においても、メディアリテラシーの必要性は高まることはあっても減じることはないでしょう。

この講義は、以上のような（社会的）要請を踏まえつつ、メディアリテラシーに含まれる「批判的」という言葉の歴史的な含意を検討し、現代社会に流通する情報と適切に「付き合っていく」ための考え方として、批判的メディアリテラシーという概念および実践を提示し、その可能性と課題について理解を深めていくことを目的とするものです。

講義の具体的な流れとしては、以下のとおりです。
まず、これまで主に西洋で論じられてきた様々な「批判」に関する諸理論とメディアリテラシーとの関係について確認し、それらの関係性のあり方について検討します。



次に、真実性が毀損された情報として「うわさ」、「うそ」、「フェイク」を取り上げ、それぞれがどのような社会的・メディア技術的環境の中で生み出され、流通するのかを検討します。

最後に、ここまでの講義内容を踏まえた上で、「情報の真実性を批判的に検討・検証する」際に、情報に相対する人々がとっている態度や姿勢について検討を加えることを意味する批判的メディアリテラシーという概念を提示し、その可能性と限界、さらには私たちの生活への適用や応用のあり方について、「うわさ」「うそ」「フェイク」の中で取り上げたものを含む具体的な事例を交えて検討します。

🤝 社会共創プログラム



政策サイクル(政策を計画する・実施する・振り返る・次に活かす)の中で、政策情報論は「政策を計画する」段階を扱います。政策を計画する時には複数の政策候補からより望ましいものを選択することもあるでしょう。その時には、市民・政治家・官僚(アクター)があらゆる方向から関わってきます。アクターは社会全体のことを考えているようでありながら自分達の効用を最大化するよう行動しています。官僚は公共の福祉を一番に考えているのは確かですが、自分たちが所属する部署の存続も重視して行動しています。そういったアクターの相互作用の中で政策が計画される過程を、経済学をベースに明らかにしていきます。

さて、政策サイクルのどの段階で情報を利用するのでしょうか。政策を計画する時に政策担当者の経験や直感に頼るところが多かったのですが、エビデンスが求められるようになってきました。GISで、単身高齢者が多数居住している地域、買い物に不便な地域、洪水が起きやすい地域、を明らかにし、声の大きな市民や政治的圧力に負けずに客観性を持ち計画することが政策担当者に求められています。

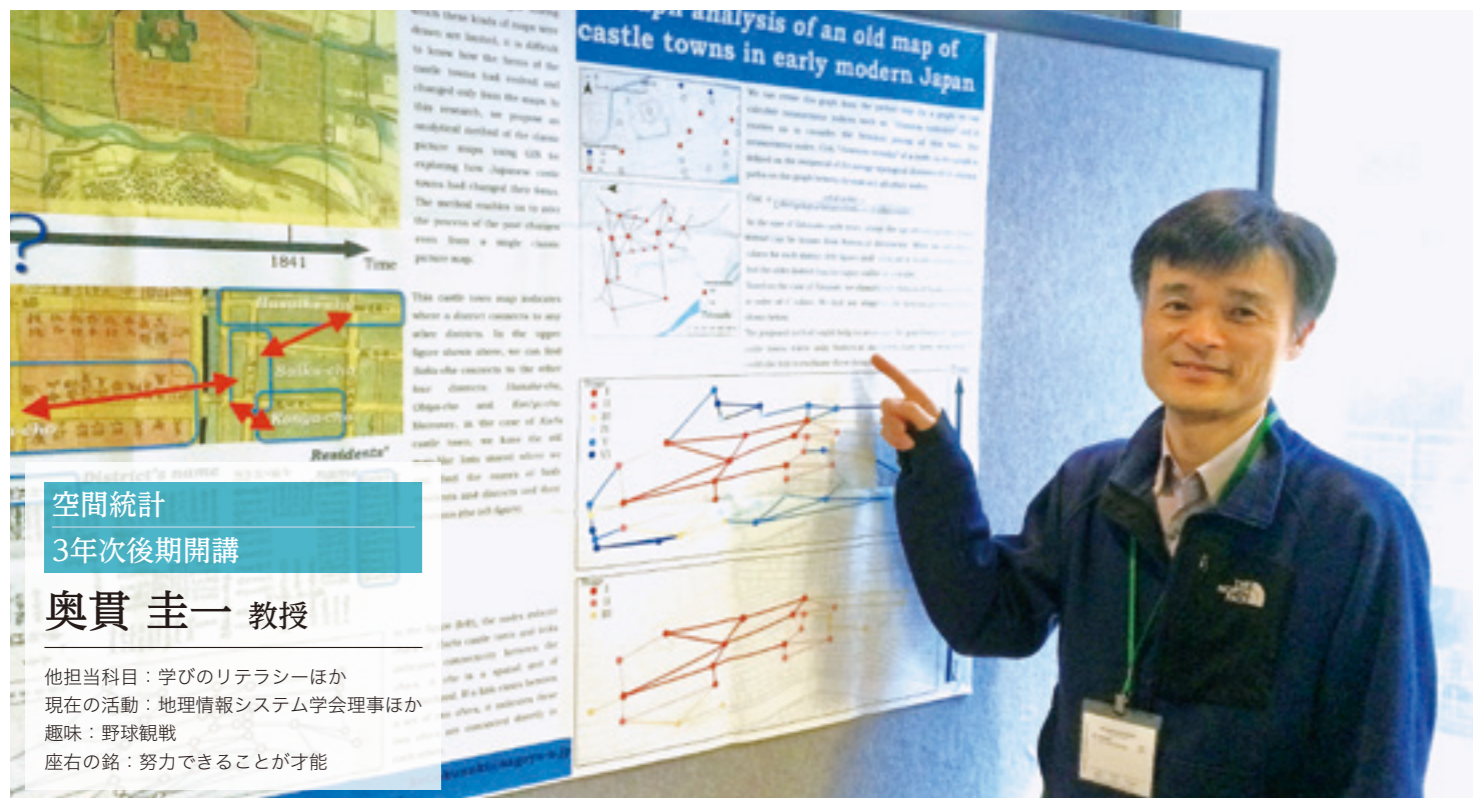
一般の商品やサービスは購入時にその対価としてお

金を支払います。不要な商品は誰も買わずその企業は倒産します。一方、市民が公共サービスを受け取っても(例えば国道の上を走って道路を削っても)料金は請求されません。対価はなんとなく税金として徴収されていて、税額は支払う人の経済状況によっても異なります。複雑な制度や多様性を背景に成り立っていて、現状では情報を使って分析できない部分が多いと思いますが、皆さんの学習によってこういった状況が変わっていくことを期待したいと思います。

情報・データを分析するツールを身に付けることは重要です。ツールを身に付けてから分析対象を探すのは順序が逆で、まずは解決すべき社会的課題を定め、それを分析するにはどのツールが良いのかと順序立てて考えていくことが肝要でしょう。ツールを身に付けることと分析対象の理解をバランス良く身に付けるのがこの情報学部なのだと思います。



📊 データサイエンスプログラム



空間統計
3年次後期開講

奥貫 圭一 教授

他担当科目：学びのリテラシーほか
現在の活動：地理情報システム学会理事ほか
趣味：野球観戦
座右の銘：努力できることが才能

わたしたちの社会では、たくさんの統計データが活用されています。中には、「どこで」とか「どの」などといった位置の情報が付されたもの(地理空間情報といいます)が少なくありません。この授業では、地理空間情報を活用するための道具である地理情報システム(GIS: Geographic Information System)について学び、空間的な視点で統計データを扱っていきます。GISは1960年代に開発されたシステムと言われてしますので、決して新しいものではありません。しかし、2000年代になるまでは、ごく一部の専門家のための道具でしかありませんでした。今では、わたしたちの身近なところでもGISを利用できるようになっています。たとえば、行政機関では、ハザードマップ作成やまちづくり、社会福祉をすすめるために、地域の基本情報として人口や土地利用などのさまざまな地理空間情報を扱っています。商業店舗では、マーケティングのために、消費者がどこからどの店舗へ買い物に訪れているのか、といった情報を将来戦略に役立てています。人工衛星がとらえた地球観測データを使って地球環境問題に取り組んでいる人々もいるでしょう。最近では、わたしたちのスマートフォンの位置情報を利用して、その時々で、どの街にどのくらいの人流があるかを

知ることができるようになりました。そんな身近になったGISは、わたしたち一般市民が自ら操作して使いこなすこともできます。ただし、そのためにはGISに関する基礎知識を身に付けなければなりません。とくに地図に関する知識を学ぶことはとても大切です。地図の知識がないと、思い通りに地理空間情報を可視化することができず、せっかくの情報を効果的に使うことができません。この授業では、GISを実際に操作していきながら、地理空間情報とGISを使いこなすための基本的な知識を身に付けていきます。



出典:国土交通省PLATEAU (<https://www.mlit.go.jp/plateau/>)

💻 計算機科学プログラム



コンピュータグラフィックス

3年次前期開講

奥 寛雅 教授

他担当科目：情報科学実験1、デジタルシステム設計、ほか
現在の活動：情報学部副学部長、IEEE、OSA、RSJ、OSJ等会員、定量生物学の会コアメンパー、ほか
趣味：ゲーム、旅行、スキー、ランニング
座右の銘：Keep it short and simple.

コンピュータグラフィックス(Computer Graphics; CG)は、計算機で画像を生成する科学技術や、生成した画像を指します。テレビや映画、ゲームなどで非常に広く利用されていて、おそらく見たことがないという人はもうほとんどいないのではないかと思います。初期のCGは非常に高価な計算機を必要とするもので、ごく一部の人がだけが扱うことができた技術でした。しかし、その後計算機の演算能力が飛躍的に向上したため、今となってはスマートフォンのような携帯端末からでもCGを鑑賞したり生成したりすることができます。

この授業では、受講生の皆さんがCGの基本的な原理を理解して説明でき、またCGを活用できるようになる、ことを目標にしています。

CGは、仮想的な空間中に物体とカメラを配置して、その物体がカメラからどのように見えるはずなのか、ということ数学と物理学に基づいて計算することで実現されています。一見難しく見える原理ですが、皆さんの眼が世の中を見ている原理と同じなので、実は皆さんがずっと体感してきた内容です。そこで本授業では講義ごとにその内容に沿って実際に計算機でCGを生成して描画条件と

その結果との関係を体感できるようにし、一見難しく見える原理を直感的に理解できるようにしています。

この講義を最後まで受講するとCGで簡単なアニメーションを作成できるようになります。言葉だけだと説明が難しい内容でもアニメーションで可視化すると簡単に伝えられる場合があり、そのようなときに活用できるようになることが一つの狙いです。実際、受講生の中にはその後の卒業研究の発表で、研究内容のCGアニメーションを作成してプレゼンテーションに利用した人もいました。また、基本的な原理が学会などで報告されている最先端の内容とどのように関係しているのかも紹介しています。

皆さんと授業でお会いするのを楽しみにしています。

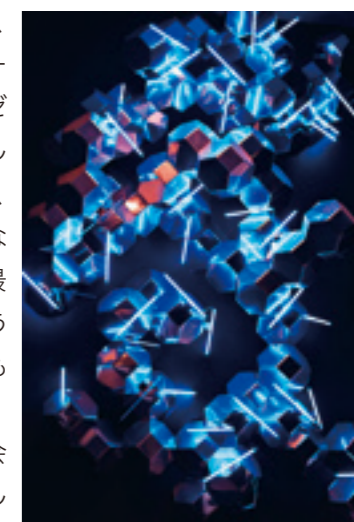


Photo by Maximalfocus on Unsplash

GFL・交換留学プログラム

※情報学部の交換留学生は制度を整備している最中です。社会情報学部と同等の制度を整備予定です。

海外留学をしてみませんか

設立母体となった社会情報学部は、海外の大学と国際交流協定を締結し、交換留学制度を設けています。2000年のリュブリャナ大学（スロベニア共和国）との間に学生及び学術交流協定の締結したことを皮切りに、今では次の大学への留学が可能となっています。ヨーロッパでは、フィレンツェ大学（イタリア）、カーロリ・ガシュパール大学（ハンガリー）、ヤギェウォ大学（ポーランド）、リュブリャナ大学（スロベニア）、ザグレブ大学（クロアチア）、アジア・オセアニアでは、東海大学（台湾）、世新大学（台湾）、台北教育大学（台湾）、建国大学（韓国）、嶺南大学（韓国）、ウーロンゴン大学（オーストラリア）、北米ではサンディエゴ州立大学（アメリカ合衆国）です。

若い時代の留学経験は、人生に大きな糧となるものです。交換留学制度で留学生生活を体験した皆さんの先輩たちは、「一瞬の出来事のように、しかし、多くのことが凝縮された一年でした」、「まずは、留学を考えてみることに。それだけで、視界が一気に広がる。自分の可能性も一気に広がる。最初の一步を踏み出してみるとということの大切さが、〔中略〕留学で得た、一番大きな財産だと思う」と感動と楽しさを語っています。（国際交流委員会ホームページ「留学体験記」より）



グローバルフロンティアリーダー(GFL) 育成プログラム

群馬大学では、グローバルフロンティアリーダー（GFL）の育成に力を入れています。GFLとは、国際理解を含む幅広い教養と、日本語・外国語による優れたコミュニケーション能力を持ち、国内外において主体的に活動できる人を指します。

情報学部のGFL育成コースでは、世界と地域をつなぐグローバル*な視点を持ち、情報分野における研究・開発・課題解決の場面で積極的に活躍するフロンティアリーダーの養成を目的としています。一般学生は9名程度を1年次前期末に選抜し後期からコースが開始されるのに対して、学校推薦型選抜（GFL特別枠）の学生（若干名）は前期からコースを開始することができます。

本コースは以下2つからなっています。

※グローバル(Global)とローカル(Local)を組み合わせた造語

(1) 関連分野(地域、国際、外国語、文化・コミュニケーション)の授業の履修

情報学部・共同教育学部開講の専門教育科目、教養教育科目

(2) 各種行事への参加

交換留学、海外短期研修、インターナショナルキャンプ、留学生交流会、研究テーマプロポーザル講座、先端研究キックオフ発表会、先端研究学際講演会、企業訪問など

所定の単位を修得し、かつ各種行事への積極的な参加が認められた者には、卒業時にコース修了証書が授与されます。またコース所属学生は2年次後期から研究室に配属され、授業料免除、留学派遣の経済的支援などの優遇措置を受けることができます。

GFL全学サイト
<https://gfl.jimu.gunma-u.ac.jp/>

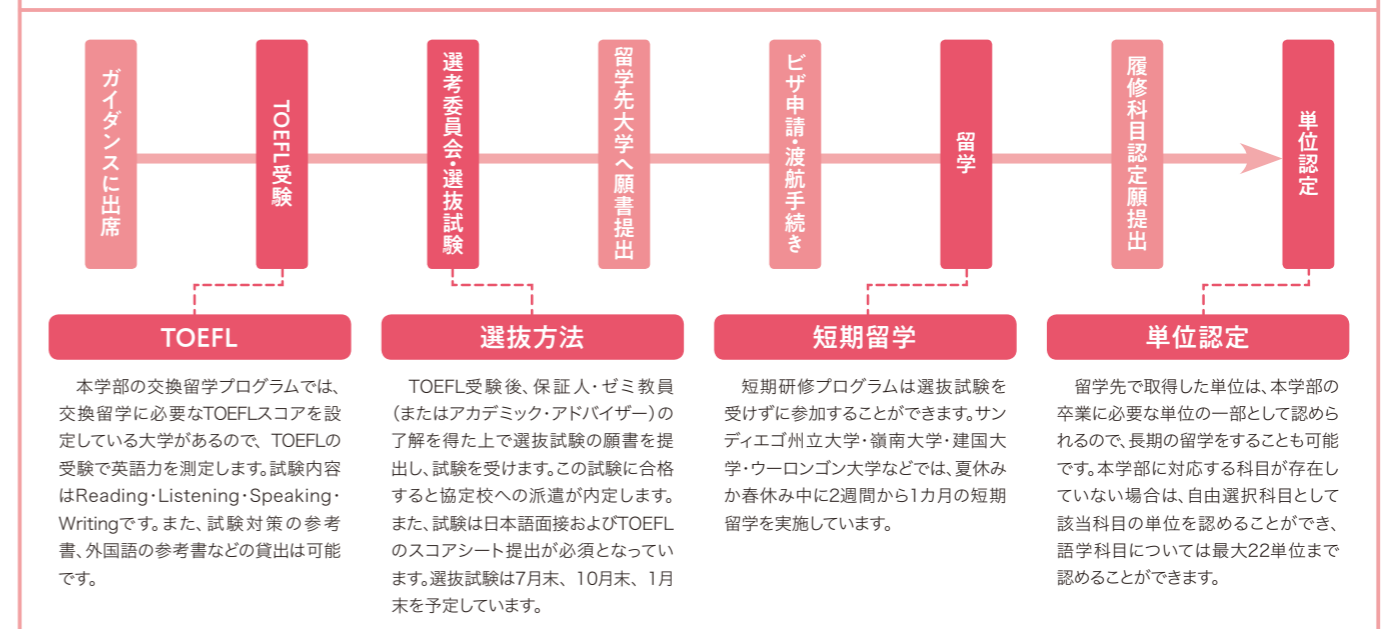


学校推薦型選抜GFL特別枠について

情報学部では学校推薦型選抜において「GFL特別枠」を設置します。詳細は群馬大学 入試案内ページおよび学校推薦型選抜募集要項をご確認ください。

- ① ヴィリニウス大学 (リトアニア ヴィリニウス市)
- ② ヤギェウォ大学 (ポーランド クラクフ市)
- ③ カーロリ・ガシュパール大学 (ハンガリー ブタペスト市)
- ④ ザグレブ大学 (クロアチア ザグレブ市)
- ⑤ リュブリャナ大学 (スロベニア リュブリャナ市)
- ⑥ フィレンツェ大学 (イタリア フィレンツェ市)
- ⑦ 建国大学 (韓国 ソウル市他)
- ⑧ 嶺南大学 (韓国 慶山市)
- ⑨ 世新大学 (台湾 台北市)
台北教育大学 (台湾 台北市)
- ⑩ 東海大学 (台湾 台中市)
- ⑪ サンディエゴ州立大学 (アメリカ合衆国 サンディエゴ市)
- ⑫ ウーロンゴン大学 (オーストラリア ウーロンゴン市)

交換留学プログラム～手続きの流れ～



就職支援・進路情報

(2021年5月1日現在)

就職率 98%

※情報学部之母体となった社会情報学部の就職率

就活支援スケジュール(予定)

	就活スタートアップ講座(3年生・院1年生)
4月	インターンシップ説明会(2、3年生・院1年生) インターンシップ・エントリーシート対策講座(2、3年生・院1年生)
	実践①自己分析講座Part1(3年生・院1年生)
5月	公務員試験直前対策講座(4年生・院2年生) 公務員試験対策講座(2、3年生・院1年生)
	実践②自己分析講座Part2(3年生・院1年生)
6月	実践③企業研究講座(3年生・院1年生) 就職活動基礎講座(1年生)
7月	就活マナー講座(3年生・院1年生) インターンシップ実習事前講座(2、3年生・院1年生)
	インターンシップ成果報告会(2、3年生・院1年生)
10月	SPI筆記試験対策講座(3年生・院1年生) 実践④エントリーシート講座Part1(3年生・院1年生)
	実践⑤エントリーシート講座Part2(3年生・院1年生)
11月	公務員基礎知識講座(1、2年生) 実践⑥面接講座Part1(3年生・院1年生)
	実践⑦面接講座Part2(3年生・院1年生)
12月	就職活動体験発表(2、3年生・院1年生) 公務員等業務概要説明会(1、2、3年生・院1年生)
1月	荒牧地区業界研究セミナー(荒牧地区合同企業説明会) (1、2、3年生・院1年生)
2月	就職活動直前講座(3年生・院1年生)
3月	都内開催での合同企業説明会参加に伴う輸送支援 (1、2、3年生・院1年生)

キャリアサポート体制

キャリアサポート室

キャリアサポート室は、学生一人ひとりの適性にあった進路決定ができるよう就職活動の支援を行っています。

具体的には、1年次より学年に応じて、キャリア計画、キャリア設計をはじめとする学修意欲の向上を図り、インターンシップにおいては、社会的に必要な能力や実践的な能力の育成、希望する企業等へのマッチング及び申請支援、実施に関する事前説明会、実習講座及びマナー教育並びに実習後の在学生への体験報告会等を実施しています。

キャリアサポート室では、各企業からの求人票・会社案内、先輩方の就職活動報告書、就職関連図書の貸出し・閲覧などができます。また、公務員用受験案内についても取り揃えています。

(企業、官公庁などパンフレット約3,000件)

キャリアカウンセリング

就職の相談に応じるため、キャリアカウンセラーが配置されています。キャリアカウンセラーは、就職だけでなく生涯設計を踏まえての幅広い相談に応じることができる専門家です。是非、気軽に相談をしてください。

特徴ある就職支援セミナー

毎年、外部から講師を招き公務員試験対策セミナーを開催しています。過去問を中心とした実践的な内容で、例年は10月から12月にかけて全18回開催しています。公務員を目指そうとする人は早めの心構えが必要です。早くからこうしたセミナーに参加しておくのがおすすめです。



キャリアサポート室

主な就職先

情報学部之母体となった社会情報学部
理工学部電子情報理工学科情報科学コースのデータとなります

- 印刷・同関連業
DNPアイディーシステム、JOETSU、凸版印刷
- 鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業
三陽金属、竹村製作所、日本製線
- 電子部品・デバイス・電子回路製造業
太陽誘電、横河電機
- 電気・情報通信機械器具製造業
ローランド ディー・ジー、ナカヨ、電源開発、東芝、セイコーエプソン、TERADA
- 輸送用機械器具製造業
山田製作所、トヨタL&F群馬、サンデンホールディングス
- 電気・ガス・熱供給・水道業
サンユウ、東芝エルイーソリューション
- 情報通信業
システム・アルファ、鈴与シンワート、ビジネスシステムサービス、両毛システムズ、アイアース、オリゾンシステムズ、日東システム開発、パミュダ、フォーラムエイト、スタイラジー、コムシス情報システム、シティコム、NTT東日本-関信越、日本オープンシステムズ(JOPS)、ディップ、リクルート北関東マーケティング、SETソフトウェア、クライム、ALL Rise Group、メイテック、CIJ、NTTデータMSE、アット東京、ジーシーシー、ヨコハマシステムズ、キャリアアセットマネジ、シグマトロン、スマートスケープ、三菱電機インフォメーションシステムズ、トリオシステムプランニング、ファナック、みずほ情報総研、OKIソフトウェア、NEC ネットエスアイ、テラテクノロジー、アイコール、東京海上日動システムズ
- 運輸業、郵便業
日通・NPロジスティクス、群馬小型運送、日本交通、東日本旅客鉄道
- 卸売業
タケイ、日本貿易印刷、群馬トヨタ自動車、エコートレーディング
- 小売業
ワークマン、クスリのアオキ、高橋ベルト、板垣、ホンダ四輪販売関東中央、フレックス、idom、オオゼキ、ヤマダホールディングス、富士スバル
- 金融業
東和銀行、群馬銀行、利根郡信用金庫、長野県信用農業協同組合連合会、大光銀行
- 保険業
東京海上日動火災保険
- 不動産業・物品賃貸
群馬セキスイハイム、大東建託
- 学術研究 専門・技術サービス業
CS-C、データフォーシーズ、ホンダ四輪販売関東中央、アイプラネット、藤井経営、共同エンジニアリング、日販テクシード
- 宿泊業・飲食サービス業
H.I.S.ホテルホールディングス
- 生活関連サービス業・娯楽業
前橋DYVER、良品計画、埼玉冠婚葬祭センター、サンボウ
- 教育・学習支援業
クローバーキタン塾、パスウェイ
- 医療業、保健衛生
栗原医療器械店、白鳥製薬
- 社会保険・社会福祉・介護事業
群馬県厚生連合会、社会福祉法人群馬県社会福祉事業団、SOMPOケア、社会福祉法人新生会
- 複合サービス
邑楽館林農業協同組合、生活協同組合コープみらい、JA信州うえだ
- その他・サービス業
東芸エンタテイメント、全国農業協同組合連合会、つばめグループ、技研コンサル、ベクトル
- 国家公務員
厚生労働省
- 地方公務員
群馬県、群馬県警察本部、前橋市、前橋市消防局、太田市、伊勢崎市、館林市、渋川市、沼田市、安中市、大泉町、甘楽町、東吾妻町、熊谷市、神川町、日光市、長岡市、いわき市、大館市、岩手県、長野県、新潟県



荒牧地区業界研究セミナー(荒牧地区合同企業説明会)の様子

荒牧キャンパス

情報学部の校舎は2棟！

10号館（旧社会情報学部校舎）に加えて荒牧キャンパス8号館を、学部新設に伴って新たな情報学部校舎としました。桜や緑豊かな自然環境の中で最高の学習環境が整っています。



2 8号館



1 10号館



4 総合情報メディアセンター
(中央図書館)



3 大学会館
(国際センター・多目的ホール・学生食堂・
大学生協・アトリウムラウンジ)

ある学生の1日



通学編

朝7:00に起きます。実家なので朝は用意してもらったご飯を食べ、身支度して、今日やることを手帳にまとめてから学校に向います。

電車・バスを乗り継いで1時間位かけて通学しています。



授業編

1年生なので普段は教養科目が多いのですが、エクセルの使い方からコンピュータのアルゴリズムなど様々な勉強をしています。僕の学年では文系と理系の学生比率は半々ぐらいです。群馬大学の情報学部は文理融合というかたちを取っており、4年間を通じて、文系、理系のどちらとも学ぶことができるので、文系も理系も好きな学生にとっては非常に良い学びの環境だと思います。



キャンパスライフ編

学校に行ったら必ず食堂でお昼を食べています。曜日毎に変わる日替わり定食があり、それが一番好きなメニューです。

友だちとは学部の中で担当の先生が付く10人程度のクラスでの授業を通して交流があり、仲良くなっていきました。今はコロナ対策で週に2回学校に行っています。学校に行くと友だちと交わる機会が増えるのでとても楽しみです。

放課後編

大学に入学した直後塾の先生を始めました。元々通っていた塾から誘われ、逆の立場になって塾でアルバイトをしています。授業を受けた生徒のアドバイスをしたり、分からないところがある子に教えたり、スムーズに勉強できるように環境を整えてあげることが仕事です。質問に来た生徒が納得して帰ってくれたときにやりがいを感じます。生徒の悩みや不安に自分から気付いてサポートできたらいいと思います。

梶澤 蒼士さん
情報学部 1年 (高崎高校出身)

ACCESS 荒牧キャンパスまでのアクセス

JR両毛線、前橋駅下車

所要時間 25分

- 関越交通バス (渋川・小児医療センター行き または 群馬大学荒牧行き)

JR前橋駅 北口2番 乗り場

「群馬大学荒牧」または「前橋自動車教習所前」下車

JR上越線、渋川駅下車

所要時間 30分

- 関越交通バス (前橋駅行き)

JR渋川駅 1番乗り場

「群馬大学荒牧」または「前橋自動車教習所前」下車



お問合せ



情報学部

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

TEL : 027-220-7402

情報学部ホームページ

<https://www.inf.gunma-u.ac.jp/>



群馬大学
全学HP



WEB版
パンフレット



LINE



Twitter



Instagram



Facebook



YouTube